

日本記者クラブ会報

各委員会で活発な討議

クラブ活動の改善と充実に

六月には十一日に会員資格委員会、十六日に会報委員会、十八日に企画委員会、そして二十二日には総務委員会と、クラブ常設の四つの委員会がすべて会合を開き、それぞれの担当分野で当クラブの活動の改善と充実のために、活発な討議が行われた。

総務委員会には必要に応じて随時開催されることになっているが、会員資格、会報、企画の三委員会は八月を除いて毎月一回会合している。

会員資格委員会は毎月月上旬に開かれ、その前日までに事務局に提出された会員の入退会や種別および区分の変更についての届け出に基づいて慎重に審議し、結果を理事会に報告

会員名簿を年一回に

事務局では毎年六月と十二月の二回、会員名簿を発行しているほか、

毎月十日に会報を送付する際に、その月からの「会員異動」を名簿よりやや小型の判にまとめて印刷したものを会員に送付している。各社で人事異動が多い月には、それが一〇ページにおよぶこともある。

たまたまさる四月に開かれた理事会の席上で、すでに一〇〇ページに達している会員名簿を年に二回も発

第149号
1982年
7月10日発行
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
プレスセンタービル9F 電話100
◎ 社団法人 日本記者クラブ
電話 五〇三一二七二二(代)

行する必要があるので、委員会で検討せよという意見が出され、会員資格委員会で検討したところ、年一回でよからうということ意見が一致した。本年十二月に発行する予定であった会員名簿の発行をやめるとなると、毎月送付している「会員異動」の通知を来年六月に新しい名簿が発行されるまで保存しておく必要があるが、人事異動の多い春までの分は、すでに本年六月に発行された本年度の会員名簿に収録されているので、会員各位にさして不便はおかけしないで済むのではと事務局では考えている。

会見運営で原則論

企画委員会では、翌月の会合までの間に予定される記者会見やシリーズ研究会のゲストの選定など、クラブ行事を決めるほか、前月の委員会以降に開かれた諸会合の運営ぶりや

内容についても意見交換を行っている。国、公賓を迎える大きな会見は理事長または副理事長が司会するが、その他の会見は企画委員が司会役を引き受けており、司会を担当した委員からの報告に基づいて出される各委員からの意見が、将来の企画運営に非常な参考となっている。

六月の委員会では、二日に開かれた趙紫陽中国国務院総理の会見が高野(NHK)山本(読売)平田(共同)の三企画委員による代表質問の形をとらざるを得なかったことに関連して三委員が会員から集めた質問事項を要領よくまとめたことは評価されたが、原則として会員が自由に質問することができるようになること、代表質問の場合でも自由な質問の時間を残すべきだとの意見が出た。

七月一日現在の会員状況

法人会員	一四三社
基本会員	六一八人
個人会員	一、〇二一人
法人・個人賛助会員	五八社
特別賛助会員	一七〇人
名誉会員	六八人
計	二〇一社、一、八七九人



むらたきよあき氏略歴 大正十一年兵庫県生ま
れ。五九才。昭和十六年渡米留学。二十二年シ
カゴ大学大学院卒。二十四年ニッポンタイムズ
(現ジャパンタイムズ)入社。論説委員、社会
部長、翻訳部長などを歴て、四十六年取締役・
編集局長。五十二年常務取締役・主幹に就任、現
在に至る。
著書に「最後の留学生 大戦下米留留学始末
記」。

「ロツパと精力的に取材、送稿しながら、その頃ニューヨークに滞在中の芝均平編集局長(現朝日イブニング社相談役)の航空便原稿だ。副題に「著名作家、米国は世界的状況対処に未経験と考える」とある。

「この記事のおかげで今朝早くから何百という電話の苦情を受けただ」

「この記事のどこがいけないんですか」

と私は聞き返した。あとで記事を読んで判ったのだが、この質問もインボデン中佐の神経を逆なで

したに違いない。

中国で生まれて長年中国に住み、「大地」でノーベル文学賞を受けたバック女史は、自らアジア通をもって任じている。その彼女に面接した芝氏は「中共の朝鮮戦争介入によって世界が混乱に陥ったことをどう思うか」と尋ねたのだ。これに対して女史は、極めて平静な口調で、「私はアメリカに責任があると思います」

と答えたのである。これには芝氏も「ショックを受けた。こんな答が出るとは思わなかった」と、この記事で述べている。

求められてバック女史は自分の考えを説明する。それはつまり次のようである――。

世界の歴史は何千年であるのに、アメリカの世界との接触の歴史は二十五年しかない。にも拘らず今、世界的な問題ととり組まされている。それは、十五歳の少年が大人の問題を背負わされたようなものだ。

「アメリカは外交には未熟で、アジアを知りません」とも言っている。朝鮮戦争を血みどろで戦っている

アメリカをこのようにバツサリ切つて捨てた記事が、マッカーサー元帥のお膝元で出版される英字新聞に出たのである。マ元帥自身が早速、副官に電話させたのかも知れない。参謀部の将軍たちもカンカンになってインボデン中佐にかみついたのだろう。彼の言う「何百の電話」はもちろん誇張だが、相当悩まされたことは間違いない。それはつまり、日本のすべての新聞と出版物の上に君臨するインボデン中佐の「能力」を疑わしめる事件であったのだ。

「明日これを載せると言ってくれ」

と言いながら、彼は一つの記事を書いた。配信元はUSIS(現在のICA)である。「同じアメリカの女性でも、朝鮮戦争を支持する人もいることを示すためだ」と説明した。それが署名記事であったか、その人のインタビュー記事であったかは記憶がない。しかし、インボデン中佐はその女性が、第一次教育使節団の一員として日本へ来たことがある、インテリ女性だと言ったことは覚えてる。

それを社に持ち帰り、留守を預つ

ていたK編集局長次に渡し、事情を報告した。(私たちの会話は英語であった)するとK氏は

「Tell him to go to hell.」(くたばれと言ってくれ)

という威勢のいいセリフを吐いた。しかしこの記事は翌日掲載され、そして「それも無理はない」と、以来三十二年間は思い続けられて来た。

ところが、この原稿を書くに当たって当時の新聞を繰って見たが、これが見あたらない。ただし、四日後の十二月二十五日には、別のUSISの記事が出ている。アメリカのインテリ七十五人が委員会を作り、反共声明を発表したというものである。当時、インボデン中佐の課ではUSISの記事を多量に流していたから、彼が記事をとり違えたのか、あるいは社内では組み込みの段階で入れ替わったのかも知れない。いずれにしても当時の事情を物語るエピソードである。

とっておきの話

りとした話 ひしひし

ご本人にとっては、いまだにブクッとする、夏なお寒いお話を特集しました。

二十四時間査証

サンケイ新聞 尾崎 龍太郎

八〇年二月四日。夜のニューデリー国際空港。入国管理官が私をつかまえ、「お前はインド出入国管理令に違反した。六十日間に二度も査証なしでパキスタンから入国した。お前を空港内に拘留する。翌朝第一便で出国しろ」という。

そのころ私はソ連軍事介入直後のアフガニスタンをはじめ、緊張する南西アジアで、シャトル取材に飛び回っていた。この夜もパキスタンでのイスラム諸国臨時相会議、ブレジンスキー米大統領補佐官とシアウル・ハク大統領との米パ首脳会議の取材を終えてインドに再到着したところである。次は人質事件のイランへ行かねばならない。荷物はニューデリーのホテルに残したままで、イラン入国査証もインドで入手する手はずとなっている。

この点を必死で空港責任者に説明し、とりあえず「二十四時間査証」をもらい、翌朝外国人居住登録局に向いて八日まで滞在を延長、無事イランへと向ったのだが、この「ヒヤリ体験」は私にとって印パ関係の厳しい現実を理解する上での「教材」となっている。

(国際報道部長)

天竜のダム

個人D会員 飯沼 和正

天竜川のほとりのダムを訪ねたことがある。山奥のダムにひかれて、長野支局時代『ダム物語』という統書き物を書いたのだが、その一コマの取材であった。

そこは戦争末期、何百人かの中国人労働者の強制労働で築かれたダムであった。中国大陸のあちこちから、日本軍は彼らを、野犬狩りさながらに連行してきたのである。建設工事たけなわの時期には、強制労働者の遺体を焼く煙が毎日のように、谷間から立ち上っていた、と聞かされた。

そのダムのコンクリート壁をよじ登って、カメラを構えた時である。レンズの焦点をあわせようとして、半身を乗り出したとたんに、足がすべった。コンクリートの壁面から眼下の放流底までは、約六〇メートル。そのままなら、一挙に谷底に転落して行ったはずである。が、足のすべった瞬間、腰のうしろの、根っここのところがつかまれた。ズボンのベルトで、わが身は宙にぶら下げられた。つまみ上げられたネコのように。鉄バシゴの一段下まで、ついてきていた管理人のオッサンがつかみとめてくれたのである。

日中友好の大見出しを、今、紙面で見ると、いつも明暗もごもに思い出す。天竜の山奥のダムのことを。もう二十余年も昔になってしまった。

(科学技術開発センター代表取締役)

ハブ

日本放送協会 小浜 維人

沖縄は東洋のガラバゴスと呼ばれるほど、特異な動植物がいることで知られている。蛇嫌いな私にとっては、なんといっても猛毒を持つハブとの出会いが思い出される。

もう十二年前のことになるが、私は沖縄の国政参加選挙の取材で、一か月余り沖縄に滞在していた。ある日激戦地中部の町議会議長を訪ねた。畑に出ているというので、後を追って砂糖キビ畑で話を聞いた。別れをつげた時、彼はハブが多いから送ろうと申し出てくれた。私はとっさに辞退してしまったのだが、すぐ後悔したことは言うまでもない。恐怖で足がなかなか前に出ない。誰も見ていないのを確認して、砂糖キビを一本引き抜き、まず草むらに石を投げ、砂糖キビでまわりをたたきながら進んで行った。

するとどうだろう。投げた石に反応して、草むらに動いた。「ハブだ!」。「ハブにかまれて殉職か!」思わず眼をつぶった。

幸いなことに、ハブは逃げてくれた。道路に上がった時、全身汗びっしょり、その場に座りこみたくなった。
(報道局記者)



築地署長からの手紙

個人D会員 多田 実

「何月何日に当署に出頭されたい」——こんないかめしい手紙が築地署長から届いたのは、六〇年安保がようやく収まったある日のことだった。こんな経験はもちろんはじめ、当時霞クラブのキャップだったが、思わずひらめいたのは、選挙運動用にと友人に渡したある名簿のこと。これが何かのほずみで選挙違反になったのではと頭から思いこんでしまったものである。

政治記者が選挙違反とは、とあってヒヤリどころか周章狼狽、仕事も手につかずの有様。ともあれと社会部に頼んで内偵してもらおうと何と何と……。

「安保報道をめぐって貴方に、殺すぞ」と脅迫状を送った犯人が逮捕されましたので」というのが出頭要請の理由だった。

そういえばたしかにそんな脅迫状が配達され、社会部経由で警察へ渡したことがあった。「殺すぞ」の脅迫を受けた時はドキリとしなかったものが、警察からのたった一枚の手紙で大狼狽もおかしな話だが、いまでもその時のヒヤリぶりは鮮明。これが

政治部記者の限界か、それにしても日本の警察はと感心したりしたものだ。 (中央大学講師)

イスラエルの戦車砲

個人D会員 安延 久夫

ジュント・ジャベール、レバノンとイスラエルの国境の村。イスラエル軍侵攻の報に、私はベイルートから同村に飛んだ。いやがるタクシーに三倍の料金をはすんだ。

同村に着いた時には、すでにイスラエル戦車三台、歩兵三中隊、中尉の指揮官が乗ったジープが進駐していた。私は写真を撮りまくった。

中尉のジープに近付くと、葉巻をくゆらした指揮官は険しい表情で言った。「この村の人とは仲がいいんだ」。岡本ら連合赤軍のロッド空港事件のあとだったので、日本人に対する感情はよくなかった。

先頭の戦車の側面三十センチのところでカメラを構えると、戦車砲が急速度で私の方に向いた。私の前にいたレバノン人親子は悲鳴をあげて逃げた。一瞬背筋に冷たい電流が流れ、おしまいだなという直感がした。

逃げてもおそいという感じで私は戦車をみつめた。十秒ぐらいたって砲口はまたすると前に向いた。十分後、その戦車の指揮官の軍曹は言った。

「日本赤軍という気がして、余程発射しようと思っただが、カメラをみて思いとどまった」と。
カイロに戻ってから妻に話すと、ちょうど同じ時刻にひやっとした不吉な思いが胸をよぎったと語った。

(フォーリンプレスセンター資料・調査・視聴覚課長)

長い縄

個人D会員 斎藤 吉史

「ちょっとクアンタンの町まで」

海岸の小さなホテルを出た時には、そんな軽い気持ちだった。空はまだ明るかったし、半ズボンにサングラスという軽装で私はうきうきしていた。一日中マレー半島を車で走り回った充実感が、用心を忘れさせたのかも知れない。

十五分も歩いたところから急に暗くなりだした。時計を見ると、六時半はとくにすぎている。そしてあつという間に真暗になった。まばらに街灯がポツンとともっているだけ。両側は黒い林。道に長々と縄のようなものが転がっている。近付いてみると蛇の死体である。車にひかれたものらしい。そう思ってみると、道路の左手に小川ともいえないような溝がつづいている。同じようなのがいまにも這い上って来そうだ。バスの通る道だというのに、人影は全くない。しばらく行くとまた道路に長い縄。動かないのを見定めて近付くと、これも蛇の死体だ。足許から急におびえがはい上ってくる。町の灯はまだみえない。

車で通りかかったホテルの従業員が、声をかけてくれた時には、私は汗びっしょりになっていた。十二年前の六月のことである。

(文政大学教授)



1982年6月2日(水)

趙紫陽(中国国務院総理)会見の質疑応答

司会：若松信重 出席者：230名
 代表質問：高野 洋, 山本和郎, 平田真巳
 通訳：黄世明(中日友好協会理事・随員)



影響を及ぼすと思うか。

中米関係は重大な試練に

趙総理 みなさんも存じのように、いま中米関係は重大な試練に直面しています。そのカギとなっている問題は、アメリカが引き続き台湾に武器を売却しているところにあります。このことについて中米間で何度も交渉が行われました。

先般、ブッシュ副大統領がレーガン大統領の委託を受けて、中国へ来て、我々と会見いたしました。その際の会談の中心問題はやはりこの問題です。つまり、アメリカが台湾に武器を売却している問題です。この会談を経て、アメリカの指導者は、アメリカが台湾に武器を売却していることに対する、中国の原則的な立場について、一層理解をもつものと信じています。

ブッシュ副大統領は、この問題を解決したいというレーガン大統領の意向を、我々に伝えました。我々はこれに対して歓迎の意を表しました。

総じていえば、中米両国の指導者が直接接触をもつということは有益です。これが中米間の困難な問題を解決するのに役立つことを、私は希望しています。双方は、この会談において、この問題について引き続き話し合うことに同意しました。もし、アメリカがあくまで台湾に対

する武器売却を続けるならば、中米関係に果たしてどのような影響をもたらすかというなら、これは必ず由々しい消極的な影響をもたらすに違いない、と私は答えます。

もちろん、高野さんが指摘されたように、中米関係はアジア・太平洋地域及び世界の平和と安定に役立つものです。ですから、中国は中米関係を重視しています。我々は中米関係の発展を希望しています。中米関係が停滞したり、後退したりすることを望んではいません。

しかし、いまとりあげられている問題は、果たして中国の主権を尊重しているかどうか、または中国の内政に干渉しているかどうかということにかかっています。もちろん、中国としては相互に主権を尊重し合い、内政不干渉の原則に立って、アメリカとの関係を発展させるものです。

我々は、上海コミュニケと中米国交成立時のコミュニケの中で、双方が一致して同意した原則に立って、特に内政不干渉と主権の相互尊重の基礎の上に、歴史に残されたアメリカの台湾への武器供与の問題を処理して、アメリカとの関係を発展させたいと願っています。

山本 中国ではいま非常に大規模な行政改革、新憲法の制定といった、高度に政治性をおびた国内改革が進んでいま

アメリカのブッシュ副大統領が訪中したとき、ブッシュさんは何を約束し、どういう点で中国とアメリカの理解が深まり、そのことがどの程度有益だったのでしょうか。

関連して、アメリカの武器供与が長く続いた場合、それが中米関係にどうい

高野 国際情勢についてうかがいます。中国とアメリカが安定した政治関係を保つということは、アジアの平和と安定にとって重要な要素です。

しかし、台湾への武器供与の問題をめぐって、中米関係に微妙なカゲリが見えます。そこでうかがいたいのですが、ア

す。我々、プレスマンは大変気が早いものですから、これに絡みまして、例えば長老級政治局員の引退があるのではないかと、国家主席にはある情報では陳雲氏であるとか、またある情報では鄧小平氏であるとかいうように、事前の観測が盛んに流れ出しています。

日本においてになった機会でもありませんし、実際のところがどういふふうになっているのか、その辺の実情をご説明いただければと思います。

国家主席、来年下半年に決定

趙総理 いま新憲法の改正案が出ましても、全国人民の間で討議にかけているところですので。この改正案は、ことしの年末頃に開かれる、第五期全国人民代表大会第五回会議にかけられます。

もし、この国家主席を設けるという条項に、討議のとき修正がなければ、おそらく来年の下半期に、国家主席が選ばれることになりま。ということ、少なくともまだ一年半の時間があるわけです。一年半前に人選を確定することは出来ません。

国家主席は人民代表大会において選挙されます。選挙の前に、中国共産党中央委員会、その人選が討議されます。しかるのちさらに党外の各民主党派と話し合いを行います。

もし新聞記者のみなさんが消息通であれば、来年の下半期に国家主席が選ばれる前に、このニュースをとらえることが出来るのではないかと思います。(笑)

平田 経済関係についてうかがいます。中国はいま経済の調整期間にあるわけですが、当初これは八二年までと予定されていました。しかし、現在、これが八五年までに延長されています。

そこで、今度は八五年までに間違いなく調整が完了するとみてよいのか。これが第一点です。また、こうした調整過程の中で、日本の経済協力にどのような期待をもっているかについてもうかがいたいと思います。

エネルギーと資源の共同開発を

趙総理 一九七九年に、国民経済に対して調整を行う方針を打ち出しました。八〇年度と八一年度において相当大がかりな調整を行いました。予想外のよい効果、成績をあげました。その当時の経済調整の主な問題は、蓄積と消費のバランスを調整することであり、農業、軽工業、重工業の間に存在していた由々しいアンバランスを縮小して、国力に見合ったものに調整することでありました。

この意味での調整は基本的に終了したといえます。ご存じのように、昨年開かれた第五期全国人民代表大会第四回会議

において、私は、第六次五年計画においても、引き続き「調整、整頓、改革、向上」の方針をとることを提起しました。

私が、この会議で、次の五年計画でも引き続き「調整、整頓、改革、向上」の方針を貫くといった意味は、もとの調整の意味とは違っています。

つまり、一部の建設を中止したり縮小したりするのではなく、製品、技術を向上、調整することであり、企業の組織、構造を調整することを目的とします。国家の経済の合理化をはかり、管理体制の合理化を進め、組織、構造を合理化するものです。これによって、主として経済効率の問題を解決することです。したがって、これは元の調整のときの意味とは違っています。

第六次五年計画の中でも調整を行います。我々は八〇年代全般を通じて現存する企業に対して改革を行うと同時に、逐次、力を集中して重点建設を行います。エネルギーと資源の開発を行い、交通・運輸の整備と拡充を進め、基礎産業の強化をはかります。

企業の技術改革においても、また重点建設の面においても、中日両国は技術、経済協力をおおに行うことが出来ま。中日が提携して、中国のエネルギーと資源の開発を行い、基礎設備、基幹産

業の建設を行うことは、日本にとっても必要であり、中国にとっても必要であります。もし、中日両国が合併で、中国のエネルギーと資源の開発を行うことが出来れば、中日両国の技術、経済協力に新しい局面があらわれます。

平田 せっかくの機会ですので、一つ教えていただきたいことがあります。現在、趙総理がもっている最新情報による中国の人口はいかほどですか。

趙総理 いまの質問は少し早く出されたいと思います。もし七月一日以後にこの問題を提起していただければ、最新の確な数字を提供出来ると思います。

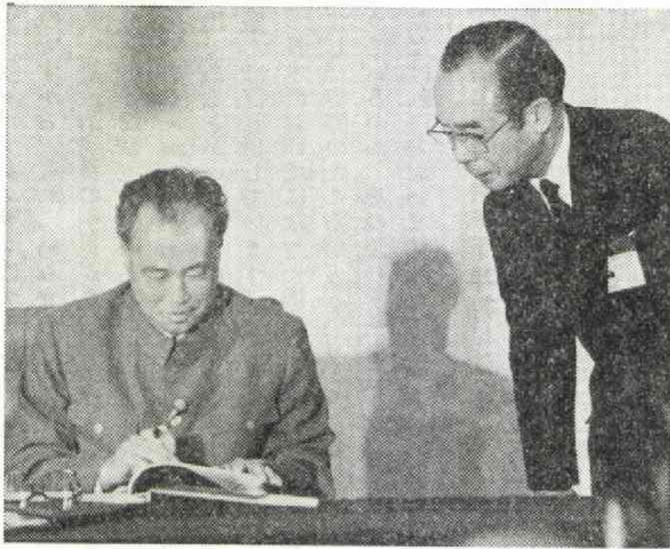
今度、第三回の全国人口調査が行われます。七月一日に全国の人口調査が行われることになっています。いま私が見つかる情報にもとづけば、中国の人口は九億九千六百万人です。この数字には台湾省の人口は含まれていません。この数字が正しいかどうか、神さまも知らないでしょう。(笑)

山本 日本と中国の協力関係を、将来、軍事協力面まで挙げた方がよいのではないかと、という意見が中国の軍とか政治当局者により、最近重ねて表明されているわけですが、趙総理は、この可能性についてどう考えておられるか、うかがいたいと思います。

趙総理 中日の協力関係を軍事面まで拡大してよい、という発言については、私はそれを聞いておりません。

一九七九年、大平首相が訪中した際、中日の協力に関する三原則を提起されました。中日の友好協力関係の中には、軍事面の協力は排除されるというものです。日本政府のこの立場を、我々は理解しており、同調しており、異議はありません。我々も同感です。

米ソは核の大幅削減を
高野 最近、アメリカとソ連との間で



戦略兵器を制限、削減するための動きが出てきており、その交渉が六月二十九日にはじまるとか、あるいは今年の十月には米ソ首脳会議が予定されるというようなことがあります。趙総理は先ほど来、中国外交は独立外交であり、覇権主義に反対するという立場を表明しているわけですが、こういう米ソ間の動きをどう見ているのか。これは覇権主義を助長するものであるのか。どう評価しているか。

その手にある核兵器と通常兵器を削減すべきです。なぜなら両超大国はぼう大な核兵器と通常兵器を擁して、世界平和の重大な脅威となっているからです。しかし、果たして米ソ二か国の談判だけで、これらの核兵器及び通常兵器を大量に削れるかどうか、私は疑っています。やはり国際社会がおおいに、これを推し進めることが肝要です。両超大国が何よりもまず最初に大量に、その核兵器を削減することは、他に押しやることの出来ない責任であると思います。(以上質疑応答の全文です)

写真提供：栗田格会員



先月のクラブゲスト

竹内 宏 (日本長期信用銀行 取締役 調査部長)



スクラップ&ビルトと外国の頭脳吸収で、旺盛な成長力を持つアメリカ。

一方、日本にとって今後は対東アジアがポイント。(四日(金) 研究会『米欧経済と日本』Ⅹ 司会 平田真己企画委員 出席五〇名)

原田 稔 (科学技術庁 振興局長)



人材、予算ともに日本の科学技術はいい線まできている。問題は基礎研究

での独創、創造性。昨年度新設の創造科学技術推進制度への期待は大きい。

(二十五日(金) 研究会『新技術』Ⅹ 司会 村野賢哉企画委員 出席三二名)

ハミード外相会見中止 六月二十八日に会見が予定されていた、スリランカのハミード外相は、健康上の都合で訪日中止となった。

東京支社訪問

信濃毎日新聞

日本アルプス山系の山々をい
ただく信州。今年も夏山や高原
は涼を求める人達でにぎわうだ
ろう。

「私も山が好きでね。今でも
たまに登るんですよ」

信毎東京支社報道部長・菊地
俊朗会員の顔は、日に焼けて健
康そうだ。

「言論国」とも、進取と自由
の国とも言われる長野県にふ
さわしく、信毎の歴史は古い。

創刊が明治六年、来年がちよう
ど百十周年に当たる。東京支局
は明治四十四年に開設され、昭
和三十二年現在の銀座一丁目北
野ビルの四、五階へ。菅沼伊佐雄
支社長のもとに営業関係十三
名、報道部八名（ほかにアルバ
イト三名）。

「ウチは支社といえども独自
取材が多くてね。実際に支社の
記者が足を運んで書く。また、
我社独自の発注原稿も多量にあ
って、支社はその窓口でもある
わけですよ」

それらホットな原稿は、デス
クの金原秀敏支社報道部次長の
手を経て本社へ送られる。現在
企画もので「平和の条件」「潮

流'82」「信州人 とうきょう最前線」が
あるほか、時の話題、例えば「東北新幹
線試乗ルポ」「まんが王国」など、硬軟
を問わず幅広く追いかける。

「信州は知的民度が高いというか、外
の情報に敏感で……。だから郷土紙に対
する注文も多いんですよ」

そうしたこともあって、信毎では外信
面にもかなりのスペースを割く。出稿も
との共同・海外支局へは、毎日の信毎が
送られているそう。

“足”で書く

支社編集部

「進取の気性」は新聞の製作、技術面
にも現われる。昭和三十一年から松本本
社で朝夕刊の現地発行が始まった（信毎
は長野、松本両本社制をとっている）。
十年程前からは長野・松本間がフアクシ
ミリで結ばれ、編集は長野に一元化され
た。

五十四年一月には松本本社で世界に先
がけて輪転機のレターオフセット化が成
功。また同年十二月には長野本社が、コ
ンピューターによる紙面編集製作システ

ム『ロスモス』（Computer Onlined
Shinano Mainichi Original System）を
完成させた。

レターオフセットというのは、松本に
既設されていたとつ版輪転機を最小限の
改造でオフセット印刷化させたもので、
東京機械製作所との協力で開発された。

開発当初から業界で話題を呼び、松本ま
で視察団を送ったニューヨーク・タイム
ズは、その後全面的なレターオフに移行
した。

さらに五十五年暮れには
長野の新印刷工場が完成し
た。太陽熱、地下水利用、
断熱構造などを総合的に採
り入れた省エネ工場で、新
開界では世界初だそう。

今年二月の省エネ月間
で、この新工場は「通産大
臣賞」を受賞した。

昨年七月から、文字が大きく読みやす
い紙面」ということで、一段14字組みに
した信毎だが、五月二十日からはさらに
読みやすく一段13字に踏み切った。これ
も『ロスモス』であればこそである。信
毎では、ここ数年で製作体制がまさに一
変したという。

さて、菊地さんは三十九年、当時年に
一隊しか許可されていなかった海外登山
遠征隊の遠征記者として、長野県山岳会

が中心となったヒマラヤのギャチニン
・カン登山隊に加わった経験がある。
現地からの詳細なルポで、同年新聞協
会賞（編集部門）を受賞した。そうした
体験もあってか、山での遭難事故に対
する最近の報道に不満をかくさない。

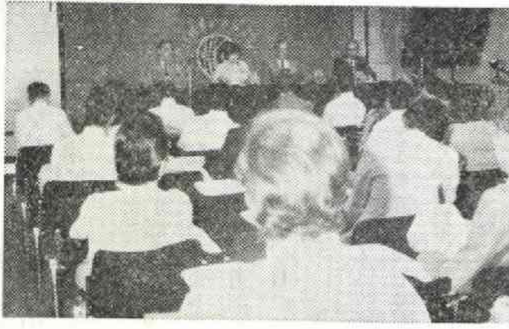
「確かに登山家自身もつと自己訓練
すべき点があります。しかし、その場
の状況をわきまえず一方的にヒステリ
ックに指弾する報道が多かったり、逆
に、ヒロイックにしたであってしまっ
たり……」



紹介 会合

1日▽リヒャルト・ベッカードイツ国営放送会長講演会—西ドイツのメディアと政治の問題点(協会)
3日▽「光と影」のエルサレム展」記者発表

表(牟田口義郎会員)▽自民党訪米議員団会見—佐藤文生、三枝三郎、宮下創平氏ら(朝吹誠会員) 4日▽学生服標準化サイズ決定」記者会見(日本織維新 木村英雄会員) 5日▽須田栄さんと「千夜一夜」の長寿を祝う会(東京新 加藤延之会員) 9日▽ピターセン クイーンズランド州首相



「豪州でなくクイーンズランドへ、
良好な労使関係と観光をPRするピターセン州首相

会見(豪州大使館 グラハム会員)▽新聞東京支社長会(協会) 10日▽NRN総会—民放38社(文化放 島地純会員) 11日▽整理部長会(協会) 12日▽都市問題研究会(木原啓吉会員) 16日▽放送通信制度研究会(NHK 片岡俊夫会員)▽在京社会部長会(協会) 21日▽正論審査会(サンケイ 川中子真会員) 22日▽永野日商会頭を囲む会(帝人 富田俊雄会員)▽ハワイ東西センター所長会見(前田義徳会員)▽「オリエンタル急行」試写・レセプション(フジTV 今井彬会員) 24日▽日本緑内障研究会記者懇談会—厚生記者会加盟社(電通PR 田中正博会員)▽しもく会—東大新聞研究所OB会(相川誠一会員) 26日▽高等教育研究会(日経 黒羽亮一会員) 28日▽欧州ツアー説明会(時事 伊香富五郎会員) 29日▽航空ジャーナリスト協会総会(富重静雄会員) 30日▽ニューヨーク州政府記者会見(博報堂 柳井誠会員)▽FNN総会・懇親会(フジTV 藤村邦苗会員)
〔会員がクラブ施設を利用して行った会合の主なものです。六月の総回数は九七回でした。()内は申し込み会員名〕

囲碁の会

内川初段が総合優勝

六月二十六日(土)午後、囲碁同好会の本年度第一回大会が開催され、内川芳美初段が総合優勝を果たし、藤沢秀行棋聖書の色紙「膝錐之志」を獲得した。

当日の参加者は十九名。段級位によって、A、B、C三クラスに分け、各人三局ずつの対局により先ずクラス別の順位を争った。

最初にクラス優勝を決めたのはAクラスの吉沢正也五段。開会に遅れること一時間余での参加にもかかわらず、百戦錬磨、気合いの早打ちでたちまち三勝をあげた。次いでBクラス菊地俊朗三段、最後にCクラス内川初段がいずれも三戦全勝でクラス優勝を遂げた。

続いて三者による総合優勝決定戦に入り、抽選により緒戦は菊地三段対内川初段。終盤近く黒の猛攻に白の大石が憤死

して勝負あり。最終戦は吉沢五段対内川初段。「四子じゃとても打てないよ」といいながら石をたたきつける五段。気合い負けしてはならずと、いつもに似ず早打ちの初段。中盤、まぎれを求めての白からの手段の数々もなかなか有効なポイントにはならず、作って十余目の黒勝ちとなった。

終局は午後七時四十五分。内川初段はこの日、約六時間半のうちに五局を打ち続け全勝。棋力とともに気力、体力の充実がもたらした総合優勝といえよう。これで二段に昇段することになった。「こんなうれいことはない。(眠くなった)膝に錐を立てるくらいは気持ちで、今後も碁の勉強をします—陰の声」と言葉少なによるこびを語った。

○……………
今回は七月二十四日(土)午後一時から例会を開催します。初めての方もお気軽に参加ください。

第22回総務委員会

昭和57年6月22日(火)
日本記者クラブ小会議室

四月三十日開催の第五九回理事会で検討を委嘱された日本記者クラブ賞の問題について審議した。その結果、規約の一

部改正、賞金の増額、推薦委員会の内規作成の三点を骨子として変更する方針で意見が一致、事務局で成案を用意し、秋の理事会に答申することを決めた。
出席 鶴田委員長、常盤副理事長、上田、気賀沢(代理)、酒井、田中、吉岡、江尻、泉の各委員。

第60回会員資格委員会

昭和57年6月11日(金)
日本記者クラブ小会議室

七月一日付での会員の入退会を検討し、理事会へ答申した。

出席 加藤委員長。赤松、滝沢、藤井、玉木、山田、長竹の各委員。

第31回会報委員会

昭和57年6月16日(水)
日本記者クラブ小会議室

六月号会報について意見交換した後、

七月、八月号会報の編集について協議した。

また、シリーズ研究会『米欧経済と日本』第七回と第八回の講演内容を、クラブ会報講演記録版として発行することとした。

出席 小林委員長。中沢、斎藤、東郷の各委員。

第91回企画委員会

昭和57年6月18日(金)
日本記者クラブ宴会場

事務局から、読売・山本和郎氏から森本良男氏へ、フジテレビ・水野文雄氏から泉田豊氏への委員交替を報告後、ゲスト選考について意見を交換した。

昼食会ゲストとしては、マンズフィールド駐日アメリカ大使、桜内義雄外相らを招くよう、折衝することとした。

なお、シリーズ研究会『新技術』は、先端コンピュータ技術、複合材料をテーマに行うことを決めた。

出席 藤村委員長。本島、石丸、森本、太田、広瀬、米、高野、梅本、泉田、河野、ヒルシヤ、村野の各委員。

プロフィール

七月一日付で入会した個人D会員、特別賛助会員の方がたです。

夏のレストラン

土曜日の夜は休みます

七月半ばから八月いっぱい土曜日の夜のレストランを休業いたします。左記の七日間に限って、夜はラウンジのスナックテーブルで、お食事をしていただくこととなりますので、ご了承承願いたします。メニューはそのまま変更ありません。

△夜のレストラン休業日▽

七月十七日／七月二十四日／七月三十一日／八月七日／八月十四日／八月二十一日／八月二十八日

なお、これらの日もランチタイム(午前十一時三十分～午後二時半、ラストオーダー二時)は、通常どおりオープンします。

ドイツワインのグラスサービス

六月二十一日(月)から二十五日(金)の間、クラブレストランでドイツワインのグラスサービスが行われました。ドイツワインの魅力か、この五日間の利用者数は次のとおりでした。(なお、今年の一月から五月のクラブレストラン一日当たり平均利用者数は、昼が五十一名、夜が十三名)

二十一日(昼)八十名、(夜)二十一名、二十二日(昼)七十名、(夜)二十六名、二十三日(昼)七十五名、(夜)十名、二十四日(昼)五十一名、(夜)三十七名、二十五日(昼)六十八名、(夜)十九名。

なお、二十四日と二十五日には試飲・即売会も行われました。

会議室利用申し込み書について

会員の方がクラブの宴会場、会議室、応接室などを利用し、会合を行う場合、「クラブ会議室等利用申し込み書」に、当日の幹事名、出席者数などを記入していただき、事務局へ提出願っています。

なお、その際、出来るだけ会合の内容、主な出席者(VIPなど)についても詳しくお書きいただくと、お願いいたします。

会員の著書(ご恵顧いただきました)

石油戦略と暗殺の政治学
イスラエル秘密情報機関

牟田口義郎
中村恭一訳

クラブ訪問者

6月18日/スザンタ・デ・アルウィス・スリランカ駐日大使 21日/楊振並中国大使館参事官 22日/ピクター・ハオ・リー東西センター所長

事務局の異動

クラブがプレスセンターへ移転して以来六年間、会計をつとめておりました鷺坂(旧姓浅沼)千春が六月末日で事務局を去りました。

鷺坂は、以前クラブのプロアマネージャーをしておりました鷺坂俊郎氏と結婚。昨年一月長女海ちゃん(うみ)が誕生しました。十月には第二子が誕生する予定です。

七月の行事

19日(月) 正午～午後2時 三木武夫元首相昼食会
会 クラブ宴会場

26日(月) 正午～午後2時 前川春雄日銀総裁昼食会
会 クラブ宴会場

会報委員長 小林淳宏

委員 桂敬一 斎藤吉史 東郷茂彦 中沢道明
連絡 長谷川(事務局) 五〇三―二七二一

各委員会で活発な討議
『とっておきの話』 村田聖明 1
『ひやりとした話』 尾崎龍太郎 飯沼 和正 小浜 維人 2
多田 実 安延 久夫 斎藤 吉史 4
趙紫陽中国首相記者会見質疑応答(全文) 6
『東京支社訪問』 信濃毎日新聞社 9
会合紹介/囲碁の会 10
プロフィール/会議報告 11
事務局から 12